

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	やすらぎ苑利府
(ユニット名)	すみれ
所在地 (県・市町村名)	宮城県宮城郡利府町沢乙字寺下10の1
記入者名 (管理者)	柴崎 まなみ
記入日	平成19年5月 日

宮城県

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を具現する理念の見直しにより、地域との関係性を強化していくことを謳っている。	○	地域密着型サービスの意義を職員と確認し合い、地域との関係性を強化、生活の場の拡がりをつくりあげていきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	苑の理念を解りやすい様書き出し、スタッフ全員の見やすい所に提示し共有している。	○	提示するだけでなく、申し送り、ミーティングなどで、理念を掘り下げて話し合い具体的なケアにつなげていきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の人々が来苑した時には、苑者様に支障がない程度に、ホーム見学をしていただき、解りやすく説明している。	○	地域住民に対して、事業所の理念を伝えていくと共に、折に触れて実践内容を伝えていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者様の散歩の付き添い等で近隣の住人の方々とも声をかけあったり、町の広報で募集し、ボランティアの方に来ていただいたり近くの高校生が来てくれたりしている。		日常的に散歩や買い物に出かけ近隣の人達と挨拶を交わしている。高校生との交流では、入居者様がとても活気づいたので、引き続き交流をしていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭り、忘年会等、年中行事には家族や地域の方々にも参加していただく様に努め、忘年会では会場を地区の会館を利用し交流を計っている。	○	さらに、地域の行事などにも参加していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	福祉センターからの要望で、認知症の勉強会の話が出ているが、まだ実現していない。		地域の方々からの認知症の相談をうけたり、地域の方々対象に認知症の理解、接し方の勉強会等を行っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝えている。	○	外部評価の結果を話し合いで公表し、改善に向けての具体案・実践へとつなげていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、家族代表と町の福祉課からの出席をいただき、意見交換を行い、サービス向上に努力している。	○	次回では、外部評価の意義・改善の取り組みなども報告・意見をいただける様にしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場担当者に対して折に触れ、事業所の実情など伝え、苑のサービスの質の向上に取り組んでいる。		役場担当者と今後も行き来する機会を作り、役場の職員の皆さんと苑との交流もはかかっていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見が必要なケースにあつておらず、管理者のみの対応となっている。職員が理解していないため、必要な時の支援体制が万全とはいえない。	○	今後必要に応じて、勉強会を開き、職員の質を高めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会やカンファレンスを行い、職員が孤立しない様に情報を共有し、防止に努めている。		さらに、随時、職員のメンタルヘルスカケアを考え、職場環境をよくしていくことで、虐待防止の徹底をはかっていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとり、話しを聞いていただいている。特に、起こりうるリスク、看取りについての対応、医療連携の実際などについて詳しく説明している。	看取り、医療連携については、事業所において先頃、方針を具体的にした経緯があり、入居の長い方のご家族様・地域への発信を強化していきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の言葉や態度からその思いを察する実践ケアで入居者様本意を最重視している。入居様の意見・不満等はユニットカンファで取り上げ、共有し、改善へ努力している。	今までどおり、利用者本位を最重要視すると共に外部者へ表せる機会を具体的に考えていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来苑時に生活ぶりを報告している。来れないご家族様へは、便りを出している。定期的に瓦版・金銭出納帳を郵送している。	今までどおり、ご家族様への報告を徹底し、事業所との信頼関係を築いていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時にスタッフや管理者が対応、言いやすい雰囲気作りに努力している。出された意見はカンファあるいは、ミーティングで検討・改善に努力している。	家族同士の集まりの場を設け、話し合ってもらう時間を取り、意見・苦情など伝えてもらう。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一ヶ月に一度全体カンファで平場で意見が出せるような機会を設け、職員の意見・提案を反映させている。又日頃からコミュニケーションを心がけ、問いかけたり、聞くことを努力している。	現状を維持し、今後も、職員の提案・意見を大事にしていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者は通常のシフトに入れていないので、夜間の対応、入居者様の状態の変化に柔軟な体制がとれている。	現状を維持し、状況の変化によっては、必要な時間帯に職員を増やす調整を努めていきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職、異動がある場合は、早めに入居者様に何回も伝えていくことをしている。特になじみの入居者様には念入りに対応し、突然いなくなることの不可解さ、不安さの影響が最小限になるよう努力している。	現状を維持し、苑者様の生活を配慮していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
苑者様の生活を配慮していきたい。			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		現状をふまえ、外部研修なども増やしていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	職員の相互訪問活動を通じてマンネリ化・固定概念にとられないケアの質の向上を目指したい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	○	職員が、安心・満足の出来る職場づくりが、よりよいケアの大事な要素と考え、職場の環境作りに積極的に取り組んでいきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		勤務評定ないの自己評価をしてもうことにより、目標を考え、向上心へつなげていくよう努めている。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		現状を維持し、ご本人さまの意向をくむ聴き方を続けていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		現状を維持し、ご家族さまの意向をくむ聴き方を続けていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状では、他のサービスより(ケアマネージャーや病院の相談員)紹介されてくることが多い。そのため初期段階では、このようなことはまれである。		他のサービス利用が必要な場合はその対応に努力していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族様とよく相談し、入院している病院に職員が顔を見せるなどして、馴染める関係作りに努力している。		今後も関係づくりに努力していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	苑様を人生の先輩として、尊敬し共に生活しながら、学びあい支えあって過ごせる環境作りを目指している。		引き続き介護される立場におかない、ともに支えあう関係を築く努力をしていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは、共にご本人様を支えていける様な関係を築けるよう面会に来られるたびに現況を詳しくお話ししている。		引き続き支えていく関係を築いていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族様やご本人様のそれぞれの思いや状況を見極めながら、無理の無い関係を築いていけるよう支援している。		引き続きより良い関係を築いていけるよう努力していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が来訪した時は、お茶を出し、ゆっくりくつろいで、談笑できるよう配慮して関係が続いていくようサポートしている。		引き続き支援につとめていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者様の関係を把握して、孤立を防ぎ、より良い生活をしてもらうため、段階的に、無理のない範囲で、席替えをしたり、食卓の数を増減して工夫している。ドライブに行く時の席の配置を工夫し、苑様同志の関係作りに努力している。		現状を踏まえ、関係づくりに努力していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現状では、遠くの施設やあるいは病院に移られるので、関係を保っていく状況とは言えない。		継続を必要とする場合にはいつでも相談にのり支えていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、言葉や表情などからその真意を読み取る努力をしている。また、ご家族様と相談しながら出来る範囲で意向を取り入れていくことを検討している。	○	毎日の生活の中で、言葉や表情などからその真意を読み取ることの勉強をし、深めていきたい。また、出来る範囲でご家族の意向を取り入れていくために、相談の機会も持っていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様の話されること、ご家族様からの情報などで少しずつ把握に努めている。		引き続き把握するための情報を得る努力をしていきます。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケース記録への記入、さらに生活リズムを表に記入するなどして、現状をきっちり把握し、総合的に理解するよう努力している。	○	憶測・推測で判断せずに暮らしの推移をデータ化して共有し、客観視した総合的把握を出来るようにしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の暮らしぶり、関わりの中から思いを聞き反映している。又職員全体でモニタリング、意見交換し、より良く暮らすための課題を見つけ生かしている。	○	ご家族の意見や話しも取り入れるなど、情報を基に毎日の生活の中でご本人様の生活を洞察していく、何が問題かをあげ原因を考えていき、より良い暮らしを実現することへつなげていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状、毎日の生活の中では検討見直しをし、ケアにつながっているが、ご家族様への説明や必要な話し合いは、良く出来ているとはいえない。	○	介護計画をもとに、ゆっくりご家族様へ説明、話し合う機会を作り、介護計画の必要性を知っていただく。見直したことは、その都度きっちり介護計画書に記載する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録簿を作り、日々の様子や食事量、水分量、排泄状態等記入し情報を共有している。	○	苑者様の状態変化や職員の気づきはケース記録に記載し、職員間で情報共有を徹底している。これらを基に、介護計画の見直し、評価を強化していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人様の体調変化では、ご家族様の状況に応じ、通院を行い柔軟に支援をしている。		引き続き支援していきます。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域との交流を目的として、ボランティアへの働きかけ、太鼓や踊りやハンドベルのグループによる訪問を依頼し、ご入苑様の生活のメリハリ、活性化を支援している。		引き続き、地域資源との協働支援をしていきます。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人様の意向により、訪問理美容サービスを利用してもらっている。又体調のいい時は、近隣の理美容室に出かける支援をしている。		引き続き支援していきます。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状では、地域包括支援センターとの協働が進んでいるとはいえない。	○	周辺情報や支援に関する情報交換などし、協力関係を築いていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医への通院・ご家族様の通院介助の協力・、訪問診療と、柔軟に、複数の医療機関と関係を結んでいる。		現状をふまえ、よりよい関係を続けられるよう支援していきます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	地域の中で、専門医が少ないこともあり、現状では、地域の中で認知症専門医との関係は万全とは言えない。困難事例は、仙台市立病院へ相談・受診している。	さらに病院との連携を深め、支援していきたい。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	医療連携により、看護職員による訪問・電話での相談など行い、体制を整えている。	現状を維持しながら、よりよい関係を保ちながら、支援していきたい。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	入院時は、職員が見舞うなどして、入院時のご入居様の状態を把握し、又医師と話す機会を持ち、事業所内の対応可能な調整を準備している。	現状をふまえ、さらに努力していきたい。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	終末ケアのあり方を文書化し、家族会を通してご家族様全員に配布し、職員全員にも、配布し話し合いの場を持ち方針の共有をしている。	引き続き話し合い、随時確認し、共有していきます。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	訪問医や看護師との連携で今後の変化に備えて検討し準備を行っている。	○ 職員間で勉強会をしながら準備していきたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	現状では、スタッフの配置人数の関係もあるため、ご入居様対応優先で行っている。	移り住んだあとの訪問などもこころがけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自分達の苑者様に対する言葉かけや対応のあり方を随時見直す機会を作ると共に、記録等の個人情報の社外持ち出し禁止を徹底し、プライバシーの確保をしている。	約束事の徹底をしていきます。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入苑者様の希望に応じて、買い物やドライブに参加されたり、個人的に理美容室に行かれる時の協力を行っている。	引き続き、検討を重ねながら支援していきます。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中で食事・入浴時間等を定めているが、就寝、起床等各自のペースに合わせ、生活のリズムをこわさないように、希望に添う様支援している。	○ 安心して暮らせる生活環境、楽しんで生活できる毎日を常にイメージできるように、掘り下げ、実践していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご入居様の希望により、ボランティアの美容師さんが来て、苑内で散髪も出来るが、希望によっては他店での散髪に行かれるように支援している。	引き続き、その人らしいことを支援していきます。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの好みを念頭にいれ、献立を工夫したり、出来る方の力を活かして調理や配膳、片付けと得意分野を職員と一緒にしてもらっている。	引き続き、検討しながら、支援していきます。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコは、今のところ吸う方がいないが、場所を決めて吸ってもらう事も過去にはあった。お酒も希望があれば晩酌程度は楽しめるように、飲み物、おやつについては苑で準備したもの、ご本人様、ご家族様の買った物を体調を崩さない程度に自由に楽しめるよう、支援している。	引き続き、楽しめる工夫をしていきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンを把握し、誘導、声かけをしてオムツの使用を減らすよう支援している。		引き続き、検討しながら支援していきます。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は決めずに毎日午後からの入浴は希望とタイミングを合わせて行っている。		引き続き、楽しめる工夫を考えながら、支援していきます。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	苑者様のその時々状況に応じて休息や入眠の支援をしている。		引き続き、検討・見直しなどしながら支援していきます。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入苑様個人の生活歴や好みに応じて家事の役わりが出来たり、買い物、散歩、ドライブと気晴らしの支援をしている。		引き続き、決めつけずに、可能性を探る支援をしていきます。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数人だが、入苑者様本人がお金の管理をされている。お金の管理が出来ない方は、預かり金として苑で預かり、買い物をする時にご本人様に財布を渡し、職員が対応している。		現状をふまえ、ご本人さまの変化もあわせ対応支援していきます。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人一人のその日の希望を配慮し、買い物、散歩、ドライブ等、日々戸外に出かけられるようにしている。		今後も積極的に支援していきます。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族様と相談したり、職員間で話し合い検討したりして、実現可能なことは、出来る範囲で支援している。		引き続き、検討をし、支援していきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも、意向があれば、電話を利用出来るよう、あるいは電話を受け取れるようにしています。		現状をふまえ、手紙のやりとりなども考えていきます。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	夜9時まで来苑出来、又ご家族様が一緒に泊まって過ごす事が出来るよう受け入れ体制を配慮している。		今後も環境づくりなど継続支援していきます。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員がてに取る事が出来るところに冊子を置き、全体カンファでも時々取り上げるなどして、時に応じて身体拘束をしないケアを確認し、取り組んでいる。		継続して取り組んでいきます。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに、苑者様が外出する時は、さりげなく付き添い一緒に出かける、あるいは声かけにて職員と過ごす時間にきりかえるなど安全を留意しながら自由な暮らしを支えている。		引き続き取り組んでいきます。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、日中は同じフロアでご本人様の状態を把握するよう務め、夜間は2～3時間おきに見守ることで対応配慮している。		引き続き安全に配慮していきます。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	苑者様の状況に合わせ、危険なものは取り除き、注意が必要なものは見守るなどして、生活空間をこわさないよう工夫をしている。		継続して取り組んでいきます。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	年に2回以上の火災避難訓練、救命救急講習会などを受けている。又転倒予測や、環境整備など工夫し、事故防止に取り組んでいる。	○	リスクマネジメントの勉強会を今後も続け、事故防止に取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	最低、年1回は救命救急講習を受け、職員の適切な対応の研修としている、又連絡網を作り、緊急時に職員が迅速に対応出来る様にしている。		継続して取り組んでいきます。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回以上の避難訓練実施、非常時の荷物の準備などして対策に備えている。		継続して取り組んでいきます。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族様にご本人様の生活の、自由に伴うリスクを説明している。苑者様のその人らしい暮らしの取り組みの理解を得られるように話すことに努めている。		今後もご家族と話し合っよりよい暮らしを支援していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調が悪くなった時は、水分量、食事量、排泄量、バイタルを基に、小さな変化などの情報を職員全体で共有し、様子を見ていくようにしている。早めに主治医に相談、受診へとつなげている。		ひき続き、体調変化に留意し、対応していきます。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーをケース記録にファイルし、職員が内容を把握出来る様にしている。また、配薬表を作り、服薬のチェックが出来様にしている。		継続支援していきます。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事内容、適度な運動により、自然排便出来る様に取り組んでいる。排便チェック表を作り、便秘がちな方は、主治医と相談し、排便を促す対応に配慮している。		継続支援していきます。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声掛けにて、出来る方は見守り、出来ない方はお手伝いし、義歯は預かり、衛生を配慮している。		継続支援していきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は、毎日ケース記録に記入、個々の状態を把握している。食事量も記録し栄養バランスと共に、目で楽しめる献立を工夫している。		引き続き、支援していきます。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	訪問診療にてインフルエンザ実施、予防対策として、手洗いは職員もご入居者様もこまめに行っている、台所の清潔等配慮している。マニュアルも作り、対策に努めている。		引き続き、今後も、大事に至らないように、対応等取り組んでいきます。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ふきんは毎日漂白し、清潔を心がけている。食材ののこりや鮮度を確認、台所の水周りを特に衛生的に心がけるように務めている。		今まで通り、大事にいたらないように、対応等取り組んでいきます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	家らしい雰囲気が出るよう、玄関に花を生けたり、植木鉢を置いて工夫している。		継続して取り組んでいきます。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	童謡、民謡、演歌、クラシックと幅広い音楽でリラックス出来る雰囲気を演出、壁には飾りつけなどしてアットホーム的な雰囲気を作るよう務めている。	○	居心地のよい共有空間とは、という視点で苑者様の好み、意見を取り入れ、さらに、落ち着ける空間へと見直していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ラブチェアやソファなどを配置し、自由にくつろがれる空間を配慮している、時々テーブルなどを少しだけ配置換えし、より良く落ち着いて過ごせるような居場所の工夫をしている。		継続して取り組んでいきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具やちょうど品は入苑時にご家族の方にご本人様の使い慣れた物を、ご本人様が使いやすい様に配置してもらっている。		今後も配慮して取り組んでいきます。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に換気に気を付けて温度調節は入苑者様の状況に応じて行っている。日常の業務の中に換気を取り入れ苑者様がいない食事の時間などに開け放す工夫をしている。		継続して取り組んでいきます。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入苑者様の状態にあわせて、トイレ、浴室、脱衣所の手すりの見直し、安全確保と自立への配慮をしている。	○	身体の状況・変化をよくアセスメントして自立した生活を考えた環境を工夫していきます。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	日々の生活状況から情報を集約、出来ることの洞察をし、職員で共有し、自立できるよう話し合っている。	○	心身の変化により、「わかること」「わかりにくいこと」「やれること」が変わっていくので、決めつけずに、日々の生活から洞察していくことを怠らず、状況に合わせた環境整備に努めたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑を作ったり、プランターに花など植え、楽しむ空間を作っている。ベランダでは、日光浴や他のご入居者様との会話を楽しむ場となっている。	○	庭に、車椅子の方が、自走で使える道を作り、車椅子の方でも外の空気、景色を楽しめるように整備していく。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
		<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/> ③たまにある
		<input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご入居様が安心して楽しく暮らしていける生活を援助します。個々の生活をどう援助できるか、職員全員で掘り下げ考えていくことで具体的ケアにつなげていきます。職員と共に笑いの絶えない生活を作っていく

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	やすらぎ苑利府
(ユニット名)	あやめ
所在地 (県・市町村名)	宮城県宮城郡利府町沢乙字寺下10の1
記入者名 (管理者)	阿部 多枝子
記入日	平成19年5月 日

宮城県

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を具現する理念の見直しにより、地域との関係性を強化していくことを謳っている。	○	地域密着型サービスの意義を職員と確認し合い、地域との関係性を強化、生活の場の拡がりをつくりあげていきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	苑の理念を解りやすい様書き出し、スタッフ全員の見やすい所に提示し共有している。	○	提示するだけでなく、申し送り、ミーティングなどで、理念を掘り下げて話し合い具体的なケアにつなげていきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の人々が来苑した時には、苑者様に支障がない程度に、ホーム見学をしていただき、解りやすく説明している。	○	地域住民に対して、事業所の理念を伝えていくと共に、折に触れて実践内容を伝えていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	苑者様の散歩の付き添い等で近隣の住人の方々とも声をかけあったり、町の広報で募集し、ボランティアの方に来ていただいたり近くの高校生が来てくれたりしている。		日常的に散歩や買い物に出かけ近隣の人達と挨拶を交わしている。高校生との交流では、苑者様がとても活気づいたので、引き続き交流をしていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭り、忘年会等、年中行事には家族や地域の方々にも参加していただく様に務め、忘年会では、会場を地区の会館を利用し交流を計っている。	○	さらに、地域の行事などにも参加していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	福祉センターからの要望で、認知症の勉強会の話が出ているが、まだ実現していない。		地域の方々からの認知症の相談をうけたり、地域の方々対象に認知症の理解、接し方の勉強会等を行っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝えている。	○	外部評価の結果を話し合いで公表し、改善に向けての具体案・実践へとつなげていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、家族代表と町の福祉課からの出席をいただき、意見交換を行い、サービス向上に努力している。	○	次回では、外部評価の意義・改善の取り組みなども報告・意見をいただける様にしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場担当者に対して折に触れ、事業所の実情など伝え、苑のサービスの質の向上に取り組んでいる。		役場担当者と今後も行き来する機会を作り、役場の職員の皆さんと苑との交流もはかかっていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見が必要なケースにあつておらず、管理者のみの対応となっている。職員が理解していないため、必要な時の支援体制が万全とはいえない。	○	今後必要に応じて、勉強会を開き、職員の質を高めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会やカンファレンスを行い、職員が孤立しない様に情報を共有し、防止に努めている。		さらに、随時、職員のメンタルヘルスカケアを考え、職場環境をよくしていくことで、虐待防止の徹底をはかっていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとり、話しを聞いていただいている。特に、起こりうるリスク、看取りについての対応、医療連携の実際などについて詳しく説明している。	看取り、医療連携については、事業所において先頃、方針を具体的にした経緯があり、入居の長い方のご家族様・地域への発信を強化していきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苑者様の言葉や態度からその思いを察する実践ケアで苑者様本意を最重視している。苑者様の意見・不満等はユニットカンファで取り上げ、共有し、改善へ努力している。	今までどおり、利用者本位を最重要視すると共に外部者へ表せる機会を具体的に考えていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来苑時に生活ぶりを報告している。来れないご家族様へは、便りを出している。定期的に瓦版・金銭出納帳を郵送している。	今までどおり、ご家族様への報告を徹底し、事業所との信頼関係を築いていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時にスタッフや管理者が対応、言いやすい雰囲気作りに努力している。出された意見はカンファあるいは、ミーティングで検討・改善に努力している。	○ 家族同士の集まりの場を設け、話し合ってもらう時間を取り、意見・苦情など伝えてもらう。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一ヶ月に一度全体カンファで平場で意見が出せるような機会を設け、職員の意見・提案を反映させている。又日頃からコミュニケーションを心がけ、問いかけたり、聞くことを努力している。	現状を維持し、今後も、職員の提案・意見を大事にしていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者は通常のシフトに入れていないので、夜間の対応、苑者様の状態の変化に柔軟な体制がとれている。	現状を維持し、状況の変化によっては、必要な時間帯に職員を増やす調整を努めていきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職、異動がある場合は、早めに苑者様に何回も伝えていくことをしている。特になじみの苑者様には念入りに対応し、突然いなくなることの不可解さ、不安さの影響が最小限になるよう努力している。	現状を維持し、苑者様の生活を配慮していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内における勉強会を設けたり、機会ある毎に研修会に職員が参加できるように進めている。ユニット内では、例えば、若いスタッフに年配のスタッフが調理方法を指導、あるいは苑者様から味つけを教わるなどして実務を学んでいる。	現状をふまえ、外部研修なども増やしていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や研修会で交流する機会を持っている。	○ 職員の相互訪問活動を通じてマンネリ化・固定概念にとられないケアの質の向上を目指したい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	まず、管理者がメンタルヘルスケアの研修に参加することから取り組み始めている。	○ 職員が安心、満足して働ける職場を作っていくことが、よりよいケアの大事な要素と考え、職場の環境作りに具体的に取り組んでいきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定期的に、個人の勤務評価を行い、勤務状況を把握して段階的に評価額を反映させている。	職員が、安心・満足の出来る職場づくりが、よりよいケアの大事な要素と考え、職場の環境作りに積極的に取り組んでいきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用の相談があった時は、ご本人様のところまで行き(病院・自宅)求めていること、状況などをよく聴く機会をつくっている。	現状を維持し、ご本人さまの意向をくむ聴き方を続けていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族様からの相談があるときは、ゆっくり時間を作って、不安なこと、求めていること等をよく聴き、又情報提供もしている。	現状を維持し、ご家族さまの意向をくむ聴き方を続けていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状では、他のサービスより(ケアマネージャーや病院の相談員)紹介されてくることが多い。そのため初期段階では、このようなことはまれである。		他のサービス利用が必要な場合はその対応に努力していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族様とよく相談し、入院している病院に職員が顔を見せるなどして、馴染める関係作りに努力している。		今後も関係づくりに努力していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	苑者様を人生の先輩として、尊敬し共に生活しながら、学びあい支えあって過ごせる環境作りを目指している。		引き続き介護される立場におかない、ともに支えあう関係を築く努力をしていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは、面会に来られるたびに現況を説明し、共にご本人様を支えていける様な関係を築けるよう努力している。		引き続き支えていく関係を築いていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族様やご本人様のそれぞれの思いや状況を見極めながら、無理の無い関係を築いていけるよう支援している。		引き続きより良い関係を築いていけるよう努力していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が来訪した時は、お茶を出し、ゆっくりくつろいで談笑できるよう配慮するなどして関係が続いていくようにつとめている。		引き続き支援につとめていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	苑者様の関係を把握して、孤立を防ぎ、より良い生活をしてもらうため段階的に、無理の無い範囲で、席替えをしたり、食卓の数を増減して工夫しています。		現状を踏まえ、関係づくりに努力していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現状では、遠くの施設やあるいは病院に移られるので、関係を保っていく状況とは言えない。		継続を必要とする場合にはいつでも相談にのり支えていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、言葉や表情などからその真意を読み取る努力をしている。また、ご家族様と相談しながら出来る範囲で意向を取り入れていくことを検討している。		毎日の生活の中で、言葉や表情などからその真意を読み取ることの勉強をし、深めていきたい。また、出来る範囲でご家族の意向を取り入れていくために、相談の機会も持っていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様の話されること、ご家族様からの情報などで少しずつ把握に努めている。		引き続き把握するための情報を得る努力をしていきます。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケース記録への記入、さらに生活リズムを表に記入するなどして、現状をきっちり把握し、総合的に理解するよう努力している。	○	憶測・推測で判断せずに暮らしの推移をデータ化して共有し、客観視した総合的把握を出来るようにしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の暮らしぶり、関わりの中から思いを聞き反映している。又職員全体でモニタリング、意見交換し、より良く暮らすための課題を見つけ生かしている。	○	ご家族の意見や話しも取り入れるなど、情報を基に毎日の生活の中でご本人様の生活を洞察していく、何が問題かをあげ原因を考えていき、より良い暮らしを実現することへつなげていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状、毎日の生活の中では検討見直しをし、ケアにつながっているが、ご家族様への説明や必要な話し合いは、良く出来ているとはいえない。	○	介護計画をもとに、ゆっくりご家族様へ説明、話し合う機会を作り、介護計画の必要性を知っていただく。見直ししたことは、その都度きっちり介護計画書に記載していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録簿を作り、日々の様子や食事量、水分量、排泄状態等記入し情報を共有している。	○	苑者様の状態変化や職員の気づきはケース記録に記載し、職員間で情報共有を徹底している。これらを基に、介護計画の見直し、評価を強化していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人様の体調変化では、ご家族様の状況に応じ、通院を行い柔軟に支援をしている。		引き続き支援していきます。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアへの働きかけ、太鼓や踊りやハンドベルのグループによる訪問を依頼し、苑者様との交流のきっかけ作りをし、生活のメリハリ、活性化を支援している。		引き続き、地域資源との協働支援をしていきます。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人様の意向により、訪問理美容サービスを利用してもらっている。又体調のいい時は、近隣の理美容室に出かける支援をしている。		引き続き支援していきます。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状では、地域包括支援センターとの協働が進んでいるとはいえない。	○	周辺情報や支援に関する情報交換などし、協力関係を築いていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医への通院・ご家族様の通院介助の協力・訪問診療と、柔軟に、複数の医療機関と関係性を結んでいる。		現状をふまえ、よりよい関係を続けられるよう支援していきます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		さらに病院との連携を深め、支援していきたい。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		現状を維持しながら、よりよい関係を保ちながら、支援していきたい。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		現状をふまえ、さらに努力していきたい。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		引き続き話し合い、随時確認し、共有していきます。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	職員間で勉強会をしながら準備していきたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		移り住んだあとの訪問などもこころがけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自分達の苑者様に対する言葉かけや対応のあり方を見直してみる機会をつくり、又記録等の個人情報の社外持ち出し禁止などにより、プライバシーの保護を徹底している。	約束事の徹底をしていきます。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	苑者様の希望に応じて、買い物やドライブに参加されたり、個人的に理美容室に行かれる時の協力を行っている。	引き続き、検討を重ねながら支援していきます。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中で食事・入浴時間を定めているが、就寝、起床等各自のペースに合わせて、生活のリズムを壊さない程度に、希望に添う様支援している。	安心して暮らせる生活環境、楽しんで生活できる毎日を常にイメージできるように、掘り下げ、実践していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	苑者様の希望により、ボランティアの美容師さんが来て、苑内で散髪も出来るが、希望によっては他店での散髪に行かれるように支援している。	引き続き、その人らしいことを支援していきます。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの好みを年頭に、献立を工夫したり、出来る方の力を活かして調理や配膳、片付けと得意分野を職員と一緒にしてもらっている。	引き続き、検討しながら、支援していきます。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコは、今のところ吸う方がいないが、場所を決めて吸ってもらう事も過去にはあった。お酒も希望があれば晩酌程度は楽しめるように、飲み物、おやつについては苑で準備したもの、ご本人様、ご家族様の買った物を体調を崩さない程度に自由に楽しんでいる。	引き続き、楽しめる工夫をしていきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンを把握し、誘導、声かけをしてオムツの使用を減らすよう支援している。		引き続き、検討しながら支援していきます。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は決めずに毎日午後からの入浴は希望とタイミングを合わせて行っている。		引き続き、楽しめる工夫を考えながら、支援していきます。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	苑者様のその時々状況に応じて休息や入眠の支援をしている。		引き続き、検討・見直しなどしながら支援していきます。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	苑者様個人の生活歴や好みに応じて家事の役わりが出来たり、買い物、散歩、ドライブと気晴らしの支援をしている。		引き続き、決めつけずに、可能性を探る支援をしていきます。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数人だが、苑者様本人がお金の管理をされている。お金の管理が出来ない方は、預かり金として苑で預かり、買い物をする時にご本人様に財布を渡し、職員が対応している。		現状をふまえ、ご本人さまの変化もあわせ対応支援していきます。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人一人のその日の希望を配慮し、買い物、散歩、ドライブ等、日々戸外に出かけられるようにしている。		今後も積極的に支援していきます。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族様と相談したり、職員間で話し合い検討したりして、実現可能なことは、出来る範囲で支援している。		引き続き、検討をし、支援していきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも、意向があれば、電話を利用出来るよう、あるいは電話を受け取れるようにしています。		現状をふまえ、手紙のやりとりなども考えていきます。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	夜9時まで来苑出来、又ご家族様が一緒に泊まって過ごす事が出来るよう受け入れ体制を配慮している。		今後も環境づくりなど継続支援していきます。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が手に取る事が出来る場所に冊子を置き、全体カンファでも時々取り上げるなどして、時に応じて身体拘束をしないケアを確認し、取り組んでいる。		継続して取り組んでいきます。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに、苑者様が外出する時は、さりげなく付き添い一緒に出かける、あるいは声かけにて職員と過ごす時間にきりかえるなど安全を留意しながら出入りの自由な暮らしを支えている。		引き続き取り組んでいきます。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、日中は同じフロアでご本人様の状態を把握するよう務め、夜間は2～3時間おきに見守ることで対応配慮している。		引き続き安全に配慮していきます。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	苑者様の状況に合わせ、危険なものは取り除き、注意が必要なものは見守るなど、生活空間を壊さないよう配慮して工夫をしている。		継続して取り組んでいきます。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	年に2回以上の火災避難訓練、救命救急講習会などを受けている、又転倒予測や環境整備など工夫し、事故防止に取り組んでいる。		リスクマネジメントの勉強会を今後も続け、事故防止に取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	最低、年1回は救命救急講習を受け、職員の適切な対応の研修としている、又連絡網を作り、緊急時に職員が迅速に対応出来る様にしている。		継続して取り組んでいきます。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回以上の避難訓練実施、非常時の荷物の準備などして対策に備えている。		継続して取り組んでいきます。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族様にご本人様の生活の、自由に伴うリスクを説明している。苑者様のその人らしい暮らしの取り組みの理解を得られるように話すことに努めている。		今後もご家族と話し合っよりよい暮らしを支援していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調が悪くなった時は、水分量、食事量、排泄量、バイタルを基に、小さな変化などの情報を職員全体で共有し、様子を見ていくようにしている。早めに主治医に相談、受診へとつなげている。		ひき続き、体調変化に留意し、対応していきます。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーをケース記録にファイルし、職員が内容を把握出来る様にしている。また、配薬表を作り、服薬のチェックが出来様にしている。		継続支援していきます。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事内容、適度な運動により、自然排便出来る様に取り組んでいる。排便チェック表を作り、便秘がちの方は、主治医と相談し排便を促す対応に配慮している。		継続支援していきます。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声掛けにて、出来る方は見守り、出来ない方はお手伝いし、義歯は預かり、衛生を配慮している。		継続支援していきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は、毎日ケース記録に記入、個々の状態を把握している。食事量も記録し、栄養バランスと共に目で楽しめる献立になるよう工夫している。		引き続き、支援していきます。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	訪問診療にてインフルエンザ実施、予防対策として、手洗いは職員も苑者様もこまめに行っている、台所の清潔等配慮している。マニュアルも作り、対策に努めている。		引き続き、今後も、大事に至らないように、対応等取り組んでいきます。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ふきんは毎日漂白し、清潔を心がけている。食材ののこりや鮮度を確認、台所の水周りを特に衛生的に心がけるように務めている。		今まで通り、大事にいたらないように、対応等取り組んでいきます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	家らしい雰囲気が出るよう、玄関に花を生けたり、植木鉢を置いて工夫している。		継続して取り組んでいきます。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	童謡、民謡、演歌、クラシックと幅広い音楽でリラックス出来る雰囲気を演出、壁には飾りつけなどしてアットホーム的な雰囲気を作るよう務めている。	○	居心地のよい共有空間とは、という視点で苑者様の好み、意見を取り入れ、さらに、落ち着ける空間へと見直していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ラブチェアやソファなどを配置し、自由にくつろがれる空間を配慮している、時々テーブルなどを少しだけ配置換えし、より良く落ち着いて過ごせるような居場所の工夫をしている。		継続して取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具やちょうど品は入苑時にご家族の方にご本人様の使い慣れた物を、ご本人様が使いやすい様に配置してもらっている。		今後も配慮して取り組んでいきます。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に換気に気を付けて温度調節は苑者様の状況に応じて行っている。		継続して取り組んでいきます。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	苑者様の状態にあわせて、トイレ、浴室、脱衣所の手すりの見直し、安全確保と自立への配慮をしている。	○	身体の状況・変化をよくアセスメントして自立した生活を考えた環境を工夫していきます。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	日々の生活状況から情報を集約、出来ることの洞察をし、職員で共有し、自立できるよう話し合っている。	○	心身の変化により、「わかること」「わかりにくいこと」「やれること」が変わっていくので、決めつけしないで日々の生活から洞察していくことを怠らず、状況に合わせた環境整備に努めたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑を作ったり、プランターに花など植え、楽しむ空間を作っている。ベランダでは、日光浴や他の苑者様との会話を楽しむ場となっている。	○	庭に車椅子の方が自走で使える道路を作り、車椅子の方でも外の空気、景色を楽しめるように整備していく。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
		<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/> ③たまにある
		<input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご入居様が安心して楽しく暮らしていける生活を援助します。個々の生活をどう援助できるか、職員全員で掘り下げ考えていくことで具体的ケアにつなげていきます。職員と共に笑いの絶えない生活を作っていきます。